様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：２３８０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３４９７

研究課題名（和文）ヨーロッパにおける公共史の実践ー歴史博物館、歴史教養メディア、歴史教科書

研究課題名（英文）Public History in Europe: Museums, Historical media and textbooks

研究代表者
剣持　久木（Kenmochi, Hisaki）

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：６０２８８５０３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　14,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ヨーロッパで進行中の歴史研究成果の伝達の最前線を公共史Public Historyの展開という視点で考察してきた。具体的には、書物、映画、博物館の三つのメディアを研究対象として、ドイツ、フランス、ポーランドをはじめとするヨーロッパの歴史書、歴史映画そして歴史博物館の関係者との対話、研究者との交流を行ってきた。現地の視察や歴史書や歴史映画の分析を行った成果は2018年に論文集として出版されたほか、内外の学会や研究集会で報告を行っている。それらを通じて、ヨーロッパでの経験の検討を踏まえた今後の展望として、東アジア共通歴史博物館構想の可能性についての問題提起を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
公共史の目的は、専門家と非専門家というタテの境界、国境というヨコの境界を超えて、歴史研究の成果を社会に伝えることである。独仏を筆頭に、歴史認識の共有が進展しているヨーロッパでの公共史の実践を研究する本研究は、東アジアへの応用を視野に入れている。本研究の研究成果は、東アジア地域における歴史認識をめぐる対立を解決する方法を具体的に提案するものになっている。

研究成果の概要（英文）：This study has examined the forefront of the ongoing attempt to make public the achievements of historical research in Europe from the perspective of public history. Specifically, we have chosen the three media as the objects of research (i.e., books, movies, and museums), and we have continued dialogues with those involved in European history books, historical films, and history museums, and also continued communication with related researchers, in countries such as Germany, France, and Poland. The results of field visits and analyses of historical books and historical films were published as a research book in 2018, and are also presented at domestic as well as overseas academic conferences and meetings. As future prospects based on our examination of the experiences in Europe, we are trying to seek a solution to the problems regarding the possibility of the East Asian Common History Museum concept.

研究分野：フランス現代史

キーワード：公共史　歴史博物館　歴史教科書　ヨーロッパ　映画　歴史教養メディア　映画

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の起点には、2007 年度から 2010 年度まで実施した科研共同研究「歴史認識共有の実験～仏独共通歴史教科書の射程～」がある。歴史上初めて国境を超えた歴史教科書を分析した同研究の成果を踏まえて、ヨーロッパにおける、より幅広い歴史認識共有の状況を分析したのが、2012 年度から 2016 年度まで実施した科研共同研究「歴史認識の越境化とヨーロッパ公共圏の形成–学術交流、教科書対話、博物館、メディア」である。後者の研究の過程で、ヨーロッパにおける歴史認識問題解決の方法論として公共史 Public history というアプローチに注目するようになり、歴史教科書、歴史博物館、歴史映画など、さまざまなメディアにおける公共史の実践を調査、研究することになったのが本研究開始の背景である。

２．研究の目的

本研究は、2016 年度までの研究成果を踏まえ、またドイツがフランスとの共通教科書に続いて、2017 年からはポーランドとも共通教科書の刊行が開始させることになったことを踏まえて、国境を越えた歴史認識の共有が進展しているヨーロッパの状況を、公共史の実践という視点で研究することを目的としていた。

３．研究の方法

本研究の研究対象である「公共史」を、書物、映像、博物館の三つのメディアに注目することで、具体的に調査、分析を行った。

(1) 書物

2017 年に刊行が開始されたドイツ・ポーランド共通教科書については、吉岡、川喜田、近藤が内容の分析を行っている。川喜田は、2016 年にポーランド学術アカデミーの Igor Kakolewski 氏に共通教科書刊行の経緯等についてのインタビューを行い、近藤は共通教科書お披露目会場となったロベルト・ユンク高校を視察し、校長や歴史担当教員と意見交換をしている。さらに 2017 年には川喜田がドイツ・ポーランド共通教科書委員会委員長の Hans-Jurgen Bomelberg 氏らから情報収集を行い、近藤とともにヨーロッパにおける共通歴史教科書をバックアップしているゲオルク・エッカート国際教科書研究所で集中的に調査を行っている。
また、西山は、ヨーロッパにおける歴史認識共有の壮大な試みである大著 *Europe, Notre histoire*(『ヨーロッパの記憶の場』、仏語版は 2017 年に刊行、以後、ドイツ語版、英語版も刊行)に自ら編者として執筆陣に参加している。ヨーロッパにおける公共史実践の成果として注目された同書の刊行に際しては、フランスで開催された同書お披露目行事（Rendez-vous d’hitoire de Blois ブロア歴史集会、2017 年 9 月）に、剣持が参加している。

(2) 映像

歴史研究の成果を非専門家が共有する、タテの公共史のメディアとして注目される映像については、精力的に実践活動を行なってきた。まず 2016 年には、ホロコースト体験の伝達がテーマのフランス映画『奇跡の教室』日本公開に全面的に協力し、剣持と西山が、フランスから歴史地理教員協会事務局長の Huert Tison 氏と歴史教育者協議会の山田耕太氏という日仏の専門家を招いて、試写会シンポジウムを開催している。また剣持は、フランスで注目されている、第二次世界大戦期ドイツ占領下のフランスをテーマにした歴史大河ドラマ『フランスの村』の内容分析を精力的に行い、2018 年にはフランス現代史研究の第一人者の Henry Rousso 氏を招いて同ドラ

マについての研究集会を開催している。さらに 2019 年には、第一次世界大戦をテーマにして映画『田園の守り人たち』日本公開に際しては、剣持が東京と静岡で関連行事を主催している。

(3) 博物館

本研究が公共史のメディアとしてもっとも注目してきた歴史博物館については、全期間を通して精力的に調査、分析を行ってきた。2016 年には剣持と西山がイギリスの帝国戦争博物館（ロンドン、マンチェスター）およびインフランダースフィールズ博物館（イープル、ベルギー）を視察した。2017 年 3 月には剣持がヴェルダン記念館、ウィーン軍事史博物館、レジスタンス博物館（リヨン）などを視察している。さらに 2017 年 9 月にはフランスにおけるユニークな公共史の現場であるブロア歴史集会を剣持が視察、一部の行事にも自ら参加しつつ、詳細な分析を行った。2018 年には近藤を除く全メンバーで、ヨーロッパにおいて注目される二大「国境を越える歴史博物館」である、ポーランド、グダンスクの第二次世界大戦博物館とブリュッセルの「ヨーロッパ歴史の家」を視察し、両博物館の関係者並びに展示作業担当企業の関係者との意見交換を行った。同年には近藤がオーストリア歴史館、吉岡が国内の北海道博物館、敦賀の人道港ムゼウム、舞鶴の引き揚げ記念館の視察を行っている。さらにドイツからゲオルク・エッカート国際教科書研究所元副所長のファルク・ピンゲル氏を招いて、ヨーロッパと東アジアの歴史博物館を比較する連続シンポジウムを開催している。2019 年には西山がベルリンに滞在し、「ゴルツォウの子供たち」博物館やドイツ歴史博物館を視察し、近藤はドレスデン連邦軍事史博物館を視察している。吉岡はサバティカル休暇を利用して１年間ポーランドで在外研究を行い、その間にユダヤ文化祭（クラクフ）、ヴロツワフ歴史博物館、ポーランド歴史家会議などを精力的に視察している。なお、9 月には剣持が学生を引率してアウシュヴィッツを見学するという、公共史の実践を行っているが、その際にワルシャワを訪問した際には、滞在中の吉岡が歴史散歩に同行している。

４．研究成果

(1) 2016 年度

2016 年 7 月に開催した映画「奇跡の教室」試写会シンポジウムの成果は、日仏両国の研究雑誌に公表している。ユベール・ティゾン「フランスでショアーを教えること」（藤森晶子、剣持久木訳）、『歴史地理教育』862 号（2017 年 3 月増刊号）、Kôta YAMADA, “Comment enseigner les crimes de guerre de l’Empire du Japon ?”, *Historiens & Geographes*, no. 438, mai-juin 2017.

(2) 2017 年度

西山が参加した前述の歴史書がフランスから刊行された。Etienne François, Thomas Serrier, Akiyoshi Nishiyama, Pierre Monnet, *Europa Notre Histoire*, Les Arenes, 2017. 同書はドイツ語版(2019 年)、英語版（2021 年）が順次刊行されることになる。2018 年 3 月には、本共同研究のこれまでの研究成果をまとめた論文集『越境する歴史認識–ヨーロッパにおける公共史の試み』（岩波書店）が刊行された。吉岡は、ポーランド広報文化センター主催のシンポジウムで報告を行っている。西山は、ポーランドで研究協力者の Barbasiewicz 女史（ヤギエヴォ大学）のゼミとの合同ワークショップを実施している。剣持は 10 月にフランス、ブロワで開催された歴史集会で、前述の Tison 氏主催のワークショップに参加している。また、11 月には剣持が日韓歴史家会議で、日本側代表団の一員として参加し、歴史認識問題解決の方法としての公共史、とりわけ東アジア共通歴史博物館の可能性を問題提起している。この問題提起は現地のメディアにも注目されている(『韓国日報』11 月 15 日に掲載)。近藤は、2022 年 4 月から高校に導入される新科目「歴史総合」の可能性と課題をめぐる議論への積極的関与を開始し

ている。(「歴史総合の課題をドイツから考える」『日本歴史学協会年報』32 号)

(3) 2018 年度

3 月に刊行された研究成果『越境する歴史認識』をめぐるシンポジウムが開催された(現代史研究会、11 月)。剣持は、2019 年 3 月に正式発足した、岡本充弘東洋大名誉教授が主催するパブリック・ヒストリー研究会に準備段階から協力し、発起人の一人として参加した。以後、同研究会が主催する研究会やシンポジウムに積極的に関わっている。

(4) 2019 年度

5 月にはオハイオ州立大学教授 Bruno Cabanes 氏を招いて講演会と研究会を実施し、その成果は 2020 年 3 月に公表した(ブルーノ・カバンヌ「われら帰還者」末次圭介訳、剣持解題『軍事史学』220 号、55 巻 4 号)。6 月には東海大学史学会大会に剣持が招かれ、「公共史のすすめ−書物、映像、博物館をめぐって」と題する公開講演を行った。11 月にはパブリック・ヒストリー研究会と共催で、ＩＦＰＨ(国際公共史連盟)会長の Thomas Couvin 氏の講演会 ”New Field, Old Practices: Promises and Challenges of the Public History-Tree of Knowledge ” を開催した。さらに 2020 年 3 月にはドイツ、ボン大学で国際研究集会「歴史教育・平和構築シンポジウム:国際理解と紛争克服」が開催され、剣持が報告する予定であったが、折りからのコロナ禍で開催が中止になった。しかしながら報告原稿 “ The prospects for Public History in East Asia: History textbooks, museums, cinema and TV ” は 2020 年秋に提出され、2022 年度中には刊行予定である。

(5) 2020 年度以降及び今後の展望

本共同研究の成果としては、映像としての公共史を論じた剣持「映画の中の世界大戦」『第一次世界大戦と民間人』(錦正社、2022 年)がある。また剣持は、公共史の実践にも取り組んでいる。2021 年度からは勤務先のカリキュラム改革にあわせて、専門科目「公共史」を開講し、同年前期には、非常勤講師を委嘱された九州大学大学院において集中講義「公共史」を開講している。後者においては、授業の一環として、日韓交流をテーマとした歴史博物館の試みとして注目されている名護屋城博物館(佐賀県、唐津)での研修調査も組み込んでいる。近藤は、高校における新科目「歴史総合」及び「公共」についての研究及び啓蒙活動を精力的に続けている。吉岡は、ポーランド史における公共史の仕事(『ポーランドを知るための 55 章』ミネルヴァ書房、2020 年、『中欧・東欧文化事典』丸善出版、2021 年など)を重ねている。西山はドイツ現代史に関する膨大な公共史業績(『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年、『近現代ヨーロッパの歴史−人の移動から見る』放送大学、2022 年など)に加えて、コロナ禍においても、オンラインでの海外との研究交流を活発におこなっている(ポーランド科学アカデミー、ウィリーブラント財団など)。川喜田は、オンライン展示「日独交流 160 周年　軍事協力を超えて」(2021 年 7 月開始)や国際オンラインシンポジウム “ Search For East Asian Peace Community: Towards Mutual Understanding Between Nations ” に参加するなど、研究、啓蒙の両面で公共史に取り組んでいる。

今後の展望としては、これまでの三つの科研共同研究で積み上げてきた研究成果を踏まえて実践的な活動を行うという方向性を考えている。具体的には、東アジア共通歴史博物館構想の準備である。これまでの共同研究で分析してきたヨーロッパでの「国境を越えた歴史博物館」を東アジアに応用可能であるかどうかの具体的検討を考えている。そのためには、これまでのヨーロッパを専門とする共同研究メンバーに加えて、東アジア特に日本、韓国、中国、台湾を専門とする歴史研究者、さらには歴史博物館の運営に専門的に関わってきた博物館関係者を加えて研究チームを結成する準備を進めている。コロナ禍という制約が存在する現状ではあるが、博物館に関してはオンラインミュージアムの整備が進んでいるという状況を逆手にとって、本共同研究の今後の第一段階はオンライン型の東アジア共通歴史博物館の開設を予定して

いる。その際には、剣持がこれまで協力関係にあった静岡平和資料センターでの経験が出発点となる。オンライン博物館に、内外の歴史博物館のリンクを貼ることで、バーチャルで「国境を越える博物館」の実験を行い、そこから将来的に対面型の本格的歴史博物館の可能性を検討していく予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 剣持久木	４．巻 54号
２．論文標題 公共史のすすめ－書物・映像・博物館をめぐって－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東海史学	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 剣持久木	４．巻 268号
２．論文標題 書評『紛争化させられる過去－アジアとヨーロッパにおける歴史の政治化』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 西洋史学	６．最初と最後の頁 118-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川喜田敦子	４．巻 128篇10号
２．論文標題 書評『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 史学雑誌	６．最初と最後の頁 89-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 西山暁義	４．巻 8-2
２．論文標題 School Politics in the Borderlands and Colonies of Imperial Germany: A Japanese Colonial Perspective, 1900-1925	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Cross-Currents: East Asian History and Culture Review	６．最初と最後の頁 488-517
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西山暁義	4．巻 26
2．論文標題 外国史教育における複眼的史料集の可能性：ドイツの歴史教育と近現代史の例から考える	5．発行年 2020年
3．雑誌名 共立女子短期大学総合文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 49-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 剣持久木	4．巻 33
2．論文標題 フランスにおける公共史の実践ーブロワ歴史集会に参加してー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日仏歴史学会会報	6．最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川喜田敦子	4．巻 56
2．論文標題 ホロコーストと戦後ドイツ：表象・物語・主体	5．発行年 2019年
3．雑誌名 西洋史学論集	6．最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤孝弘	4．巻 819
2．論文標題 新自由主義教育改革と歴史教育の課題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 歴史評論	6．最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Akiyoshi NISHIYAMA	4．巻 32
2．論文標題 Reconciliation en Europe, Re;conciliation en Asie de l'Est. Des itinenaires differents	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Le Courrier du Memorial. Bulletin de liaison des Amis du Memorial de l'Alsace-Moselle,	6．最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西山暁義	4．巻 64
2．論文標題 書評：橋本伸也編『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題―ナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤―』	5．発行年 2018年
3．雑誌名 現代史研究	6．最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 剣持久木	4．巻 126篇5号
2．論文標題 2016年の歴史学界ー回顧と展望ー現代ヨーロッパ　一般	5．発行年 2017年
3．雑誌名 史学雑誌	6．最初と最後の頁 351-353
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ゲルト・クルマイヒ、西山暁義	4．巻 10
2．論文標題 戦争責任から国際化へ―第一次世界大戦研究の回顧と展望	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ゲシヒテ	6．最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 剣持久木	4．巻 943
2．論文標題 第二次世界大戦の文化考察・アジアにおける大戦の問題点と遺産	5．発行年 2016年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉岡潤	4．巻 1005
2．論文標題 ポーランド：国民記憶院ーー記憶の「国有化」とその政治資源化	5．発行年 2016年
3．雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6．最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Akiyoshi Nishiyama	4．巻 1
2．論文標題 Geschichtskrieg uber den Weltkrieg? Die aktuellen Debatten um Weltkultur- und Weltdokumentenerben in und um Japan	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Dhau. Jahrbuch fur aussereuropaische Geschichte	6．最初と最後の頁 185-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西山暁義	4．巻 694
2．論文標題 「ドイツの『サンボ』：帝政期ドイツにおける児童向け絵本と植民地主義」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 歴史と地理	6．最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　5件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 剣持久木
2．発表標題 公共史のすすめ
3．学会等名 現代史研究会シンポジウム
4．発表年 2018年

1．発表者名 近藤孝弘
2．発表標題 ドイツとオーストリアにおける政治教育と歴史教育の展開
3．学会等名 早稲田大学公民教育研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 西山暁義
2．発表標題 現代史はどう教えられているか
3．学会等名 シンポジウム「よりよき市民性教育のために―ドイツにおける政治教育の検討と語学教育の場での実践を考える」
4．発表年 2018年

1．発表者名 Akiyoshi NISHIYAMA
2．発表標題 Reconciliation de l'Europe, vue de l'Asie de l'Est
3．学会等名 Table Ronde "Reconciliation: l'AND de l'Europe" organisee en partenariat avec les Amis du Memorial Alsace-Moselle et Chemins d'Europe et le Mont-Sainte-Odile
4．発表年 2018年

１．発表者名 西山暁義
２．発表標題 国境を越えることの難しさ―ドイツ・フランス、ドイツ・ポーランド共通歴史教科書の事例から考える
３．学会等名 シンポジウム「よりよき市民性教育のために―ポピュリズムのうねりのなかで民主的シティズンシップ教育には何ができるか―
４．発表年 2019年

１．発表者名 剣持久木
２．発表標題 公共史の射程ーヨーロッパにおける歴史認識越境化と東アジアー
３．学会等名 アジア太平洋地域歴史認識問題研究会（代表者：菅英輝）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 剣持久木
２．発表標題 反戦平和運動の挫折から仏独歴史和解へ：歴史認識問題解決のヒントを求めて
３．学会等名 第17回日韓歴史家会議（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 西山暁義
２．発表標題 暴力教育の世紀末から『子供の世紀』へ？―19世紀末ドイツの学校教育における体罰
３．学会等名 同志社大学人文科学研究所第19期「身体・環境史研究会」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Akiyoshi Nishiyama
２．発表標題 Between Border Regions and Oversea Colonies: The German Empire as a Model for Imperial Japan on the Eve of the First World War
３．学会等名 Annual Meeting of Association for Asian Studies (AAS-in-ASIA)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Atsuko Kawakita
２．発表標題 Nachkriegsbeziehungen zwischen Deutschland und Osteuropa aus japanischer Sicht
３．学会等名 Gemeinsames Kolloquium (Osteuropaische Geschichte & Didaktik der Geschichte) (Justus-Liebig-Universitaet Giessen)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 近藤孝弘
２．発表標題 思考力を重視する歴史の大学入学資格試験のあり方について－アビトゥア試験を中心に
３．学会等名 日本西洋史学会第67回大会（一橋大学）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉岡潤
２．発表標題 ピウスツキーーポーランドーーカトリック
３．学会等名 特定非営利法人フォーラムポーランド組織委員会・ポーランド広報文化センター共催シンポジウム「ピウスツキーー様々な肖像」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉岡潤
２．発表標題 イレナ・センドレルと戦うポーランド
３．学会等名 ポーランド広報文化センター主催シンポジウム「イレナ・センドレルに会いたい」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 近藤考弘
２．発表標題 「歴史総合」の課題をドイツから考える－カリキュラム改革の差異をめぐって－
３．学会等名 日本歴史学協会「歴史教育シンポジウム-『歴史総合』をめぐって」
４．発表年 2016年

１．発表者名 吉岡潤
２．発表標題 ヴィトルト・ピレツキは何のために戦っていたのか――第二次世界大戦中および戦後初期のポーランド
３．学会等名 ポーランド広報文化センターシンポジウム「ヴィトルト・ピレツキ――祖国独立のために闘った英雄」
４．発表年 2016年

１．発表者名 西山暁義
２．発表標題 グローバリゼーションのなかで歴史を書くこと：近代歴史学思想へのトランスナショナル・アプローチ
３．学会等名 日本西洋史学会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計9件

1．著者名 剣持久木	4．発行年 2018年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 203
3．書名 よくわかるフランス近現代史	

1．著者名 剣持久木、川喜田敦子、吉岡潤、西山暁義、近藤孝弘	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 213
3．書名 越境する歴史認識ーヨーロッパにおける「公共史」の試み	

1．著者名 Etienne Francois, Thomas Serrier, Akiyoshi Nishiyama, Pierre Monnet	4．発行年 2017年
2．出版社 Les Arenes	5．総ページ数 1385
3．書名 EUROPA NOTRE HISTOIRE	

1．著者名 橋本伸也、吉岡潤	4．発行年 2017年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 303
3．書名 せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題ーナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤ー	

１．著者名 歴史学研究会、川喜田敦子、西山暁義	４．発行年 2017年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 310
３．書名 歴史を社会に活かすー楽しむ・学ぶ・伝える・観るー	

１．著者名 歴史学研究会、西山暁義	４．発行年 2017年
２．出版社 積文堂出版	５．総ページ数 303
３．書名 第4次現代歴史学の成果と課題　2 世界史像の再構成	

１．著者名 松井康浩、中島毅、吉岡潤	４．発行年 2017年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 320
３．書名 ロシア革命とソ連の世紀2、『スターリニズムという文明』	

１．著者名 石田勇治、福永美和子、川喜田敦子、剣持久木	４．発行年 2016年
２．出版社 勉誠出版社	５．総ページ数 435
３．書名 想起の文化とグローバル市民社会	

１．著者名 寺田匡宏、川喜田敦子	４．発行年 2016年
２．出版社 あいり出版	５．総ページ数 302
３．書名 災厄からの立ち直り－高校生のための〈世界〉に耳を澄ませる方法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	吉岡　潤 (YOSHIOKA JUN) (10349243)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	近藤　孝弘 (KONDO TAKAHIRO) (40242234)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	西山　暁義 (NISHIYAMA AKIYOSHI) (80348606)	共立女子大学・国際学部・教授 (32608)	
研究分担者	川喜田　敦子 (KAWAKITA ATSUKO) (80396837)	東京大学・総合文化研究科・教授 (12601)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関